

かいぎめいしょう 会議名称	へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい きろく 平成29年度 第3回杉並区地域自立支援協議会 記録
にち じ 日時	へいせい ねん がつ にち か 平成29年11月28日(火) 13:30～16:00
ば しょ 場所	く やくしよぶんちようしや かいえーびーかいぎしつ 区役所分庁舎4階AB会議室
<p>しゅつせきいじん ＜出席委員＞</p> <p>たかやまゆみこいじん (かいちょう)、はるやまようこいじん (ふくかいちょう)、たなかたかしいじん、かねこいじん、かしわぎしんじいじん、しまだゆうじろういじん、さいみやうひさえいじん、かわぐちりえこいじん、たなかなおきいじん、すずきまさみちいじん、ばんどうともこいじん、つぐひとしいいん、てらにしひろあきいん、しまだゆうぞういん、しもだかずのりいん、しゅりみかさいじん、ほそがのおさむいん、ながたなおこいじん、たなかすみこいじん 高山由美子委員(会長)、春山陽子委員(副会長)、田中崇委員、金子めぐみ委員、柏木伸二委員、島田祐次郎委員、西明久恵委員、川口理恵子委員、田中直樹委員、鈴木正道委員、阪東智子委員、継仁委員、寺西宏晃委員、島田有三委員、下田一紀委員、修理美加沙委員、細貝長武委員、永田直子委員、田中澄子委員</p> <p>けつせきいじん わたなべひでおいん のせゆたかいいん あいだりかいいん 欠席委員：渡邊英夫委員、能勢豊委員、相田里香委員</p> <p>ぼうちよう 傍聴なし</p> <p>かんじ ＜幹事＞</p> <p>ほけんふくしよぶしやうがいしやしきくかちよう でほゆうじ しやうがいしやせいかつしえんかちよう もろすみじんこ 保健福祉部障害者施策課長：出保裕次、障害者生活支援課長：諸角純子</p> <p>けつせきかんじ すぎなみふくしじむしよたかいどじむしよたんどうかちよう おかもとさちこ 欠席幹事：杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：岡本幸子</p> <p>じむきよく ＜事務局＞</p> <p>しやうがいしやしきくか めぐるきみこ ささきなつえ たなべのぶひろ ほしのたけし いけだけいこ きろく 障害者施策課：目黒紀美子、佐々木夏枝、田邊信広、星野健、池田恵子(記録)</p> <p>しやうがいしやせいかつしえんか きしよしひさ 障害者生活支援課：岸義久</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長挨拶</li> <li>3 報告及び検討       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幹事会より</li> <li>(2) 相談支援部会より</li> <li>(3) 地域移行促進部会より</li> <li>(4) 働きかたサポート部会より</li> <li>(5) シンポジウム実行委員より</li> <li>(6) 差別解消支援地域会議より</li> <li>(7) 計画部会より</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: center;">～～～～ 10分間 休憩 ～～～～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(8) 障害施策等に関する国の動き及び区の取組について</li> <li>4 その他       <p>くからのれんらくじこう 区からの連絡事項</p> </li> <li>5 閉会</li> </ol>	

## 【配布資料】

資料1：相談支援部会活動報告

資料2：地域移行促進部会活動報告

資料3：働きかたサポート部会委員名簿

資料4：平成29年度シンポジウム実施(案)について

資料5：差別解消地域支援会議の報告

資料6：地域共生社会の実現に向けて

資料7：在宅医療・生活支援センターについて

資料8：地域生活支援拠点等の整備について

資料9：障害福祉サービス等報酬改定検討チーム資料

資料10：第5期杉並区障害者福祉計画・第1期杉並区障害児福祉計画(案)・・・当日席上配布

参考資料：第2回地域自立支援協議会 議事録・・・当日席上配布

## 【内容】

### 1 開会

### 2 会長挨拶

年末が近づいて皆様忙しくなっていることと思います。今年最後の地域自立支援協議会となりました。盛りだくさんの議題がありますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 3 報告及び検討

#### (1) 幹事会より

前回の協議会での意見から、障害福祉計画及び障害者計画の中に盛り込んだもの等の整理をした。前回の振り返りと今回の協議会の進め方、差別解消支援地域会議の進め方について確認を行っている。検討の中でご意見をいただきたい。(事務局)

#### (2) 相談支援部会より<資料1参照>

- ・Aグループ(多職種連携)は、支援困難ケースの検討の中でどのように連携していくか、予防的視点から家族へのサポート、幼少期や学齢期の親子関係などについても検討している。10月19日には性教育に関する研修会を実施した。
- ・Bグループ(重症心身障害児者の課題)は、本会委員の永福学園の島田先生にオブザーバーとして参加していただき、見学を多く実施している。
- ・Cグループ(高齢期の課題)は、資料の訂正あり「3.活動報告」の一覧表の第三回を削除。今後、介護保険事業者との連携も探っていく。
- ・Dグループ(外出・移動)は、成果物としてイベントマップなどの作成や、移動や余暇の課題を抽出したい。移動支援だとサービス等利用計画を作成していないこともあるので、移動や外出をマネジメントする上で必要なことなどを整理していきたい。
- ・Eグループ(児童の課題)は、アセスメントについて理解を深めるための学習会や、放課後等デイサービス、学童クラブの見学を実施。特別支援学級の先生方との情報交換会を実施し、活発に意見交換ができた。来年1月に放課後等デイサービスの連絡会にEグループから参加する予定。
- ・本会委員の協力もあり、活動を広げることができている。相談支援部会のリーダー会を開

催したところ、相談支援部会の幹事会の強化を図っていくことが提案された。定例で2か月  
に1回幹事会を開催し、各グループの活動の進捗状況や本会への報告内容の共有、新た  
な課題の共有、相談支援体制の充実など、意見を出し合い活動を活発にしていきたい。相談  
支援部会への要望なども出してほしい。(下田部会長)

(3) 地域移行促進部会より<資料2参照>

- ・知的グループは、地域移行の流れと選択肢の現状と課題について意見交換をした。重度の知的障害者の課題は大きく、地域移行が困難なケースがある。強度行動障害などで地域での生活が難しい方に入所施設は必要という意見もある。今後、意見を整理して課題の解決を探っていきたい。部会だけで解決が難しい課題については、本会にあげていく。
- ・精神グループは、地域移行プレ相談事業が浸透しつつあり、依頼が増えている。これまで手が付けられなかった地域(多摩や八王子、青梅などの市部)の精神科病院へのアプローチをしていく必要があるのではないかと。顔の見える連携ができる取り組みを具体的に検討していく。また、一般相談支援事業所を増やす取り組みも具体的に実施していく。

(4) 働きかたサポート部会より<資料3参照>

- ・部会委員名簿の紹介。第1回を12月6日(水)13:30~15:30ワークサポート杉並で開催予定。これまでの検討経過と課題の共有、今後の部会の方向性の検討を行う予定。テーマによって、オブザーバー参加も可とする方向。

(会長) 各部会の活動報告について、ご意見がある方はご発言を。

- ・相談支援部会は活発な活動をしているが、最後のまとめをどうしていくのか?  
⇒まとめの方向性については、1月のリーダー会で話し合う予定。
- ・地域移行促進部会で一般相談支援事業所を増やす取り組みを実施するとあったが、24時間の連絡体制の確保という点が労務管理面で問題があり手が出せない実情があるのではないかと。運営面で厳しいという事業所が多いと思う。
- ・相談支援部会のリーダー会では、相談支援事業所を取り巻く流れや環境、現状がどうなのか、件数や困難事例など、アンケートをまとめたりして本会でも発表したい。
- ・地域移行促進部会で重度の知的障害者の課題が出ていたが、重度でも一人暮らしという選択肢もある。今年度のシンポジウムでも地域移行がテーマとなっている。
- ・働きかたサポート部会が今できる意味として、就労移行支援などを利用して働き始めた後の課題や、働きやすい環境づくりなどの検討ができるかとよいのではないかと。
- ・働きかたサポート部会の委員としては、どこに着地点を置くのか悩んでいるところだが、就労に関してどんなところに悩まれているのか、当事者の委員も入っているので、当事者の目線からの意見を中心に話し合いができたかと思っている。いろいろな場面で皆さんのお力をお借りしたい。
- ・先ほど、知的障害者で一人暮らしという意見も出たが、本当はグループホームがいいけど親が高齢化して待たない状況がある。どのような支援が受けられるのか見えない中で選択を迫られている。グループホームによって、土日は原則帰宅するところもあるが、親がみられなくなった時にどうするのか?グループホームっていったい何だろうと思う。グループホームの内容に差があるのが現状。ニーズに応えられるような形に整備されて

いかないといけない。皆さんで話し合っ<sup>みな はな あ</sup>ていい方向<sup>ほうこう</sup>に向けていっ<sup>む</sup>てほしい。

・グループホームの数が少ないので、逆に立場が強い。グループホームの数を増やさない<sup>かず つか</sup>と、という意見<sup>いけん</sup>がある。グループホームで働く人材確保は困難<sup>こんなん</sup>で、泊まりのある職場<sup>しょくば</sup>は影響<sup>えいきょう</sup>が大きい。重度化<sup>じゅうどか</sup>や高齢化<sup>こうれいか</sup>などに対応<sup>たいおう</sup>できる専門性<sup>せんもんせい</sup>も求められる。厚生労働省<sup>こうせいろうどうしょう</sup>の働きかた改革<sup>かいかく</sup>でも出ているが、高齢<sup>こうれい</sup>の方で働ける方<sup>かた</sup>がかなり眠<sup>ねむ</sup>っていると思<sup>おも</sup>われる。多様な人材<sup>たやうな じんざい</sup>が分業<sup>ぶんぎょう</sup>しないと運営<sup>うんえい</sup>が成り立たない。

・土日<sup>どにち</sup>を閉めるグループホームが区<sup>く</sup>にどれだけあるのか？指定解除<sup>していかいじょ</sup>の対象<sup>たいしょう</sup>になるのでは？グループホームは家<sup>いえ</sup>なのに土日帰宅<sup>どにちきたく</sup>するというのはおかしいのではないか。

⇒土日<sup>どにち</sup>の日中は、職員<sup>しよくいん</sup>の確保<sup>かくほ</sup>が難しい<sup>むずか</sup>こともあり、利用者<sup>りようしゃ</sup>は移動支援<sup>いどうしえん</sup>を利用して外出<sup>がいしゅつ</sup>をするという対応<sup>たいおう</sup>は三分<sup>さんぶん</sup>の二<sup>に</sup>くらいある（知的<sup>ちてき</sup>）。土日<sup>どにち</sup>に帰宅<sup>きたく</sup>しているグループホームの利用者<sup>りようしゃ</sup>に短期入所<sup>たんきにゅうしょ</sup>の支給<sup>しきゅう</sup>はしていない。

国<sup>くに</sup>も課題<sup>かだい</sup>として認識<sup>にんしき</sup>しており、グループホームを閉めているときは減算<sup>げんざん</sup>などの対応<sup>たいおう</sup>をしている。

(会長<sup>かいちょう</sup>) 減算<sup>げんざん</sup>しても利用者<sup>りようしゃ</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>がよくなるわけではないので、実態<sup>じったい</sup>を具体的<sup>ぐたいてき</sup>に事務局<sup>じむきょく</sup>から報告<sup>ほうご</sup>してほしい。本会<sup>ほんかい</sup>で何を<sup>なに</sup>取りあげていくのかなどについても、ぜひ意見<sup>いけん</sup>を出<sup>だ</sup>してほしい。

(5) シンポジウム実行委員<sup>じっこういん</sup>より<資料4 参照>

・内容<sup>ないよう</sup>については資料<sup>しりょう</sup>のとおり。チラシ<sup>ひょうじ</sup>の表示<sup>ひょうじ</sup>とルビ<sup>ちが</sup>が違<sup>ちが</sup>っているため訂正<sup>ていせい</sup>する。

(6) 差別解消支援地域会議<sup>さべつかいしょうしえんちいきかいぎ</sup>より<資料5 参照>

・報告<sup>ほうご</sup>は資料<sup>しりょう</sup>のとおり。区政モニターアンケート問7「ハートバリアフリー事業<sup>じぎょう</sup>」は「ハートビル法<sup>ほう</sup>」に訂正<sup>ていせい</sup>。

・耳マーク<sup>みみ</sup>については、外部機関<sup>がいぶきかん</sup>や委託先<sup>いたくさき</sup>にも設置<sup>せつち</sup>をしてほしい。

・区職員研修<sup>くしよくいんけんしゅう</sup>については、当事者<sup>とうじしや</sup>の話<sup>はなし</sup>を聞く機会<sup>きかい</sup>を持つことが有効<sup>ゆうこう</sup>という意見<sup>いけん</sup>あり。

・区政モニターアンケート問7に「障害者基本法<sup>しょうがいしやきほんほう</sup>」「発達障害者支援法<sup>はつたつしょうがいしやしえんほう</sup>」が入<sup>はい</sup>っているのではないか。「合理的配慮<sup>ごうりてきはいりよ</sup>」が入<sup>はい</sup>っているなら「バリアフリー」もあつた方がよいと思<sup>おも</sup>うが、どれだけ広<sup>ひろ</sup>げるのかという課題<sup>かだい</sup>もある。

・会議<sup>かいぎ</sup>の中では、アンケートが考える機会<sup>きかい</sup>になるような内容<sup>ないよう</sup>になっているといいという意見<sup>いけん</sup>があつた。

・問10に「今後区<sup>こんごく</sup>が取り組むべきこと」となっているが、「区<sup>く</sup>」だけなんだ、と思<sup>おも</sup>ってしまった。今後<sup>こんご</sup>「自分<sup>じぶん</sup>が！」という問<sup>と</sup>もあつてよいのではないか。

・前の会社<sup>まえ かいしゃ</sup>にいた時<sup>とき</sup>に上司<sup>じょうし</sup>の人<sup>ひと</sup>にいじめみたいなことを言<sup>い</sup>われた。休<sup>やす</sup>んだら「来<sup>こ</sup>なくていい」と言<sup>い</sup>われて嫌<sup>いや</sup>になったこともある。それをお母<sup>かあ</sup>さんに言<sup>い</sup>ったら「なんでひどいことを言<sup>い</sup>うのかね」と言<sup>い</sup>ってくれて、辛<sup>つら</sup>かったけど我慢<sup>がまん</sup>して仕事<sup>しごと</sup>に行<sup>い</sup>っていました。

(会長<sup>かいちょう</sup>) 具体的<sup>ぐたいてき</sup>に経験<sup>けいけん</sup>されたことも、そういうことがなくなるように、辛<sup>つら</sup>いこともたくさんあるという声<sup>こゑ</sup>も受け止められる会議<sup>かいぎ</sup>であるといいと思<sup>おも</sup>っています。

・問1「障害<sup>しょうがい</sup>のある人<sup>ひと</sup>にかかわりがありますか？」について、一般<sup>いっぽん</sup>の区民<sup>くみん</sup>の方<sup>かた</sup>に身体障害者<sup>しんたいしょうがいしや</sup>はわかりやすいと思<sup>おも</sup>うが、「それはどんな障害<sup>しょうがい</sup>の方<sup>かた</sup>ですか？」という問<sup>と</sup>があると、今後の指標<sup>しひょう</sup>になるのではと思<sup>おも</sup>った。

・問7「権利条約<sup>けんりじょうやく</sup>」「差別解消法<sup>さべつかいしょうほう</sup>」「発達障害者支援法<sup>はつたつしょうがいしやしえんほう</sup>」など知らない人<sup>ひと</sup>も多い。知<sup>し</sup>っていた

だくという意味ではよいが、一般の人でも何となくわかる解説があるとよいと思う。

・知らない人に知ってもらおうということ、知っていただきたいという思いもある。

⇒山梨で同じようなアンケートをしていた。差別解消支援地域会議でも意見があったので、内容を検討してみる。(事務局)

(会長) アンケートは1月に実施とのことなので、結果については本会でも報告をお願いします。

#### (7) 計画部会より<資料10参照>

・11月24日(金)の保健福祉委員会で報告後に公表するということがあったため、資料は本日配布となった。計画の構成について大きな変更があったが、内容については変更なく記載している。計画の全体の構成は「概要版」を見てください。今回の計画は「障害者計画」「障害福祉計画」「障害児計画」の3計画を策定する。計画の理念は3計画すべてに通る理念を掲げている。課題としては「やるぞ計画」になっているため、どのように実現していくかについて、皆様のお力を貸していただきたい。

・12月1日からパブリックコメントを開始するので、ご意見をいただきたい。

・地域包括ケアシステムや、地域共生社会の取り組みの中に「高齢障害者」が入っていることもあり、介護保険計画の概要版も本日配布している。

(会長) 計画策定にかかわっている方、ありがとうございます。パブリックコメントで意見を出していくようにご協力をお願いします。

~~~~~ 10分間 休憩 ~~~~~

#### (8) 障害施策等に関する国の動き及び区取組について

##### ア 地域共生社会の実現に向けて<資料6参照>

・資料6について説明。「我が事・丸ごと」の地域づくりを育む仕組みへと転換していく改革。地域を基盤とした包括的支援体制を構築する。

・共生社会の実現に向けて区として動いていることとしては、保健福祉計画を横断的・縦走的に策定。介護保険の計画部会にも障害者分野から参加し、高齢者の計画にも障害者の視点を盛り込んでいる。天沼三丁目に建設する複合施設「ウェルファーム杉並」は、資料6のP5「改革の骨格」1.3.4に該当する。

##### イ 在宅医療・生活支援センターの概要について<資料7参照>

・区は平成30年4月にウェルファーム杉並・複合施設棟内に在宅医療・生活支援センターを開設する。高度困難事例対応拠点という部署を設置する予定。今後の検討によっては、地域共生社会の中核になるかもしれない。縦割りではなく区全体で考えられるような仕組みとしてスタートする。

##### ウ 地域生活支援拠点等の整備について<資料8参照>

・地域生活支援拠点は、平成32年までに必ず設置するようにと国が示している。区の計画にも地域生活支援拠点の整備を入れており、区では面的整備型を検討したいと考えている。協議会の委員の皆様のお力、ご意見をうかがいたい。

・国の大きな動きとしては、「我が事・丸ごと」「地域生活支援拠点」「意思決定支援」「共生型サービス」「報酬改定」などがあがっている。

##### エ 計画相談支援・障害児相談支援に係る報酬・基準について<論点等> <資料9参照>

- 資料9について、計画相談支援で大きな改定、論点が示されている。モニタリング実施標準機関の見直し、相談支援専門員1人あたりの担当件数の設定など、大きな改定内容が盛り込まれている。区としては、計画相談支援に関する大きな改定となるため、特定相談支援事業所の皆様と一緒に検討していきたい。1月中旬に特定相談支援事業所の皆様と意見交換を行いたいと考えている。協議会の皆様のお力をお借りしたい。

(会長) 国の動向からこの地域でどうしていくか、ご意見をいただきたい。

- 地域生活支援拠点については、ゆるゆるという印象。杉並区では「すまいる」を拠点として「地域生活支援拠点」を名乗れば国はOKというくらいのもの。相談支援はどっちにする赤字。モニタリングの頻度を上げるが単価が下がる。B型は工賃が下がると報酬が下がる。杉並区で工賃が少ない事業所を排除することがないようにしてほしい。週に3日以上来られない人はダメということがあったこともあり、危機感を持っている。何らかの積極的な施策を考えていってほしい。
- 課題が盛りだくさんという印象。特定相談支援事業所をやっているが、相談支援部会、すぎなみ会議などいろいろな会議体があるので、部門を作って検討し、協議会で意見をもろうなど工夫したほうがよいのではないか。現場の意見集約は、区だけでなく委員も一緒にできるとよい。
- 今回の報酬改定では加算をつける形での減算となっている。事業所を休止しているところもあり、件数を絞られるとなると相談支援事業所を閉めるところも増えており、危機的な状況である。天沼の複合施設は降ってわいた感がある。何をどこに相談したらよいかわかりにくい。役割や機能の整理が必要。すまいるや基幹相談支援センターなども整理する必要がある。高齢障害者については、ケアマネさんとの協力をどうやっていくのか、相談支援事業として、前向きな提案として議論していきたい。
- 今回、国の動向について協議会の議題としてあげてもらいよかった。今回やらないと間に合わないと思った。高齢の動きも気になっている。協議会としては情報の共有とともに事務局に課題整理をお願いしたい。面的整備、地域生活の充実、グループホームや単身生活の増加、軽度の人々は単身生活に移行するのかなど、一つ一つ検証していく必要がある。自立支援協議会で意見の検討をお願いしたい。

(会長) 今回、発言いただいていない方もいらっしゃるので申し訳ないと思っています。計画相談支援の論点を上げていただいたが、協議会でも論点を上げていく必要があると思います。

委員の皆様からも論点を上げていただき「今後の協議会で論点とすべきこと」を上げてほしい。

次回はシンポジウムがありますので、皆様ご参加をお願いします。

今回の議論が冷めないうちに、次回の協議会を実施したいと思っています。消化不良な気もするが、時間となってしまったので、次回はできるだけ協議ができる内容としたいと思います。

4 区からの連絡事項

なし

5 閉会

以上